



# おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

## プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）  
東京で大学・研究室生活を経てUターン  
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、  
方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる  
心理学・新潟学講師、日本語教師、経営学修士(MBA)、新潟郷土史研究会会員

著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）

「おもしろ えちご塾」（恒文社）

「郷土とことわざ」「ことわざを楽しく学ぼう、社会・文化・人生」

（人間の科学新社・共著）

「明治大学政経論叢 2016年度（新潟美人）」（明治大学政治経済研究所）等

## 「てんずる はんずる」

最近、あきやきやなことがしかもかありました。今まで忠実だったパソコンが、メールの送受信であんべわるくなることがあるようになりました。相手先によっては送受信可能なのに、です。「そもそもすぐ買い換えればいいこって」という声もありましょう。ほんだ、そうらて、ごもつとも。しかし、今どきの機器は、新機種にデータを移すのに時間もエネルギーもいっぺこと費やします。おまけに、過日のタブレット通信機の買い換えでは、某携帯店がデータ移行を誤ったせいでおおごとになりました。上記と諸般の理由が買い換えを慎重にさせているのです。

その上、長年愛用していたコンタクトレンズのメーカーが姿を消してしまいました。鼻真にしていたあの店この店移転・閉店・撤退、愛用のあの品この品生産中止であきやきやです。

「あれもダメら、これもねえ、それもあんべわりい、どんげせばいいんだね！」の私に他人は言います「そんげこともあっさ、気にしんなて」。また、ある人は「お祓いしなせ、いいもん紹介するて」と開運祈祷グッズを売りつける勢いです。もちろん、前者の他人のことばを信じ、時の流れに身を任せの自然体、果報は寝て待てあっぱん口で、県産ワイン片手にあぼ〜んとしておりました。

するとどうでしょう、ばかいい新潟のことばが浮かんで来たではありませんか。それが「てんずる はんずる」です。手ずる（手立てや方法か？またはその道に詳しい人の人脈か？）が半ずる→半減する

（多分）で、良い方法や協力者が見つからない、したがって、『どもこうもならんね状態やその心情』を表していると思われることばです。あるいは、「てんずるは 転ずる」「はんずるは 反ずる」で、転んであべこべ反対向きになった？と考えれば「滑った 転んだ 騒ぎらて」の状態も想像できます。もしくは、「手こずるがてんずるに転訛した」とも考えられます。この場合「はんずる」は、単に調子いい感じを出すために追加した意味なし語かも知れません。

正確な語源は謎ですが、韻を踏むわ、対句になるわ、リズムカルで調子いいわの三拍子、ドタバタおおごと感もばかよく表れています。しかもずるは、新潟弁の代表格「ずる」（動く）にも通じて、ひときわ新潟弁らしい趣を醸し出しています。

「てんずる はんずる」、周りの誰（もちろんネットも）に聞いても「なんだね、それ」と不思議がられるため、多分死語に近いことばでしょうが、言い得て妙な言い回しは先人たちの語彙力の賜物です。「てんずる はんずる」は「転ずる 範ずる」、災い転じて範となす！とも解釈したい郷土のことばです。

※なお、当稿の語と解釈は筆者の調査と蒐集ノートによるものです。明確な語源は定かではありません。

てんずる はんずる

